

新事業「大学生×図書館でビジネス支援！～若者の力を地域に生かす～」について

中尾有希子（鳥取県立図書館）

1. はじめに

鳥取県立図書館は「県民に役立ち、地域に貢献する図書館」というミッションのもと、「仕事とくらしに役立つ図書館」「人の成長・学びを支える図書館」「鳥取県の文化を育む図書館」の3つの柱の実現に向けて様々な事業を展開している。多様な情報が1ヶ所で入手可能な場所は図書館しかないという強みを生かし、これまでの事業で培ってきた県及び市町村の関係各課、県内図書館、産業関係専門機関、企業、NPO等との連携をさらに強化し、人材の育成や産業の発展などに貢献していくために、今後何ができるのかを考える。

2. 大学生に着目

2017年2月23日、全国大学生生活協同組合連合会による「第52回学生生活実態調査」（2016年10～11月実施）の結果が発表された。この中の「読書時間」の調査で、一日の読書時間が「0」と回答した学生が、49.1%（文系43.9%・理系50.2%・医歯薬61.6%）だった。前年から3.9ポイントの増加であり、「0」が40%台になった2013年以降3年間で8.6ポイント増となった。

スマートフォン等の普及による読書時間の減少は予想していたものの、少しショッキングな数字である。そこで、当館を利用する大学生の近年の利用状況が気になり調べてみた。

「鳥取県立図書館のすがた」（図書館要覧）によると、過去5年間の19～22歳（大学生以外含む）の年間貸出冊数と利用者登録率は表1のとおりである。貸出冊数は横ばいであるが、登録率が減少傾向にある。（当館の統計は年齢別であり、「大学生」に限定できない点はご了承ください。）当館と県内にある大学は協定を結び、大学にいながら県立図書館資料の貸出と返却が可能であり、そのため県立図書館を利用していない学生もいるのかもしれない。

表1. 過去5年間の19～22歳の年間貸出冊数と利用者登録率

（「鳥取県立図書館のすがた」を参考に作成）

	貸出冊数（総貸出冊数の割合）	登録率（全体の割合）
平成23年度	10,059冊（2.2%）	6.1
平成24年度	10,242冊（2.1%）	5.5
平成25年度	12,056冊（2.2%）	5.0
平成26年度	11,327冊（2.0%）	4.6
平成27年度	9,115冊（1.5%）	4.3

大学生には図書館を利用することで、社会の動きや世の中の流行などに、幅広くアンテナを張り、好奇心旺盛に新しいことに挑戦してほしいと思う。そして、この自己責任・自己判断の時代に、図書館で情報収集・情報活用能力を身につけ、今後、社会人になってからも図書館を活用してほしい。

そこで、今回は「大学生や20歳前後の人」（以下「大学生」）をターゲットにし、企業や産業の発展につなげるための事業を提案したい。

3. 新事業「大学生×図書館でビジネス支援！」の提案

3.1 ねらい

次代を担う大学生が、図書館の資料を使って、商品開発や開業等の企画に関わることのできる機会を作る。また、就職活動や就職後に必要な情報を得るためのセミナーを開催する。これらの取り組みにより、図書館のビジネス支援等が就職や仕事に生かせることを認知してもらい、今後の図書館利用につなげ、社会人になったときの利用を推進していく。

そのためには、公共図書館、大学図書館、専門図書館、行政、大学キャリアセンター、企業、農業関係団体、商工関係団体等が連携し、大学生に継続的にきめ細かい支援をしていけるような体制をつくる。

その結果、大学生には課題解決能力や情報収集能力が身に付き、図書館の資料で問題解決できることも実感してもらえる。そして、県内産業や企業に魅力を感じ、県内での就職や県外出身学生の県内就職率が増え、企業等に優秀な人材が確保でき、地元産業・企業の発展につなぐことができると考える。また、企業や事業者にも図書館のビジネス支援について知ってもらうよい機会になる。

3.2 ターゲット

大学生、企業・事業所、各産業従事者

3.3 初年度の事業内容

(1) 大学生とのマッチングで新商品開発！

新商品開発を考えている企業等と大学生が、新しい商品を企画していく場を設定する。図書館が持つビジネス支援機能を生かして、市場動向、業界動向、販路開拓のための企業情報の把握、商品化に必要な資料等、様々な情報が入手できることを企業及び学生に知ってもらう。そのため、以下の手順を進める。

- ①商工会議所等を通じて、学生とのマッチングを希望する企業・事業所を募集する。
- ②県内の大学を通じて、参加したい学生を募集する。
- ③図書館職員による商品開発に役立つ多種多様な本・雑誌・新聞・データベースの活用

方法、専門図書館の紹介。

- ④企業が開発したい商品について、学生とディスカッションし、図書館資料やツールを使いながら、企画を作り上げていく。
- ⑤学生による新商品のプレゼンテーション
- ⑥大賞を決める。大賞に選ばされると、県立図書館より賞金あり（商品化の助成）。
- ⑦大賞受賞者は、商品化に向けて鳥取県産業振興機構等からアドバイスを受けることができる。

(2) 図書館を就職活動に生かす基礎セミナーの開催（年間5回）

対象：大学1，2年生

大学生がこれから社会で活躍する前に備えておきたい知識や情報収集能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を図書館で身につけ、自信を持って就職活動し、自分を生かせる職業に就くことを応援する。

そのため、図書館の資源を生かし、関係機関と連携しながら、大学生を支援するために必要なプログラムを作成する。各回とも図書館資料を使ってもらえる仕掛けをつくり、図書館のビジネス支援やくらし支援の各サービスを知ってもらう。また、企業等の見学も行い、現場から学ぶ機会もつくる。

※「図書館を就職活動に生かす基礎セミナー（5回連続）」のプログラム例

回	内容	講師
1	「働くということ」 就職3年以内の若い人から、やりがい、成功体験、失敗談、就職活動のことなどを、多職種について気軽に聞けるセミナーを開催する。 また、鳥取県立図書館の「ビジネス支援」「働く気持ち応援コーナー」や「ドリームティーンズコーナー」等から、「働くとは」「仕事とは」「経営者の生き方、働き方」「社会で活躍している人」の本を多様に用意し、紹介する。	社会で活躍している若い人、 鳥取県立図書館職員
2	「図書館で情報収集（アナログ編）」 図書館職員による、本・雑誌・新聞を使った情報の集め方の講義と演習。	図書館職員
3	「図書館で情報収集（デジタル編）」 図書館職員による、就職活動等に有効なインタ	図書館職員

	ーネットサイトやデータベースを使った情報収集方法の講義と演習。	
4	「産業技術センターや企業の見学会」 地元の技術や企業を知る機会を作り、興味を持ってもらう。	産業技術センター、企業
5	「プレゼンテーション」 このセミナーで学んだことや感じたことを各自プレゼンテーションする。その後、講師に講評をしてもらい、発表の方法等を学ぶ。	ビジネス支援図書館推進協議会に依頼

(3) パスファインダーの作成 (担当：図書館職員)

鳥取県での「就職」「農林水産業就業」「起業」「移住定住」等をテーマに、関係図書や相談機関等を紹介したパスファインダーを作成し、館内での配布やホームページに掲載する。

(4) ホームページで情報提供 (担当：図書館職員)

鳥取県内のハローワークやふるさと鳥取県定住機構等の機関が作成している就職情報や企業情報や、鳥取県での暮らしに必要な情報を、図書館ホームページにリンクさせ、ワンストップで情報収集できるようにする。

3.4. 次年度の事業内容

大学生の課題解決能力や情報活用能力を育成し、図書館のビジネス支援機能を周知するためにも、初年度事業を参考に、引き続き事業を継続する。

(1) 大学生とのマッチングで開業しよう！

初年度に行った「商品開発」事業の手順を参考にし、大学生が図書館で情報収集しながら、「開業したい人」のためにアイデアを出していく事業を実施する。

- ①商工会議所等を通じて、「開業」のアイデアのために、学生とのマッチングを希望する人を募集する。
- ②県内の大学を通じて、参加したい学生を募集する。
- ③図書館職員による開業に役立つ本・雑誌・新聞・データベースの活用方法、専門図書館の紹介。
- ④開業したい人と学生がディスカッションし、図書館資料やツールを使いながら、企画を作り上げていく。

⑤学生による開業案についてのプレゼンテーション

⑥大賞を決める。大賞に選ばされると、県立図書館より賞金あり（開業の助成）。

(2) ステップアップセミナーの開催（年間5回） 対象：大学2，3年生

初年度に続き、より就職活動や社会人に役立つ内容のセミナーを開催し、図書館のサービスや資料を活用してもらう。

※「ステップアップセミナー」（5回連続）のプログラム例

回	内容	講師
1	「図書館を使った成功事例を聞く」 図書館のビジネス支援を使って起業や商品開発等を行った人の話を聞く。また、発想から企画、商品化までの流れなどを聞く。	図書館利用者
2	「PRのための講座」 売上を伸ばすために重要なPR・広報について方法や技術を学ぶ。	ビジネス支援図書館推進協議会に依頼
3	「仕事と病気」 働く本人や家族が病気になった時に必要な行政支援や医療のことについて聞く。図書館資料の活用についても紹介する。	行政、医療従事者、患者、図書館職員
4	「子育てと仕事」 将来、子育てをしながら仕事をする可能性のある人々に対して、当館の子育て応援サービスや行政支援について紹介をする。	図書館職員、行政
5	「各産業を知る」 各産業に従事する若い人の生の声が聞ける場を設定する。	若手従事者

(3) 企業による新商品発表会

前年度の事業の結果、商品化されたものを図書館で発表してもらう。また、商品を展示し披露する。図書館の取組や商品化の流れを図書館ホームページに掲載し、マスコミ提供も行う。

(4) 企業向けセミナーの開催（講師：図書館職員）

本事業に関わった企業等に対し、今後図書館ができる支援について説明する。また、データベースを体験してもらい、今後の仕事に活かしてもらおう。

4. 必要経費

費目	金額	内訳
講師謝金・旅費	164万円	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内講師 30,000円×40人=1,200,000円 ・ 県外講師 50,000円×2人=100,000円 ・ 旅費（県内） 5,000円×40人=200,000円 ・ 旅費（東京往復+1泊2日）70,000円×2人=140,000円
広報費	36万円	<ul style="list-style-type: none"> ・ チラシ、ポスター作成（セミナー2回分）300,000円 ・ 送料（2回分）600,000円
賞金（助成金）	100万円	500,000円×2回（商品開発、開業）
計	300万円	

5. この事業を進めるために必要なこと

大学生や企業、各産業がターゲットとなるため、大学図書館や行政、各産業関係機関との人脈を作り連携することが重要となる。図書館職員は各企業や産業について学び、講師派遣や情報提供などを交渉していく必要がある。そのためには、図書館員が図書館のビジネス支援の意義と可能性について理解してもらえるよう、コミュニケーション力やプレゼンテーション能力をつけることが必要となる。

また、大学等で行われているキャリア支援との差別化が必要となるため、大学の支援内容を知り、公共図書館ならではの展開を企画していくことも不可欠である。

そして、商品開発や開業・企業に役立つ資料や就職活動に役立つ資料を充実させ、図書館を活用する魅力をPRしていくことも必要である。

6. この事業に期待すること

この事業により、大学生の情報活用能力の育成、人材育成、企業・産業支援につながることを期待できる。また、図書館側も新たな利用者層の開拓や事業展開につながることを期待できる。

7. おわりに

「地方にこそ質の高い図書館が必要。東京に行かなくても、地方で同等の情報が入手で

きるようにすること。」

ビジネスライブラリアン講習会の締めくくりに聞いたこの言葉は、図書館がビジネスや生活に役立つ支援をし、地域の発展に貢献する存在である意味だと納得し、身の引き締まる思いがした。

今後、自分自身の情報探索スキルを向上させ、所蔵資料を充実させ、地域の課題を探り、専門機関や関係機関との連携し、県民と情報をつなぐ地域に貢献する図書館をめざしたい。

【参考文献】

- ・菅谷明子 2003『未来をつくる図書館』（岩波新書），岩波書店
- ・寿山泰三ほか 2016『大学生のためのキャリアガイドブック Ver. 2』，北大路書房
- ・小樽商科大学地域研究会 2010 『大学におけるキャリア教育の実践』，ナカニシヤ出版
- ・辻太一朗 2013『なぜ日本の大学生は、世界でいちばん勉強しないのか？』，東洋経済新報社
- ・大西正志ほか 2016『地域と連携する大学教育の挑戦』，ぺりかん社
- ・2011『ソーシャルビジネス・ケースブック 地域に「つながり」と「広がり」を生み出すヒント』，経済産業省

【参考サイト】

- ・全国大学生生活協同組合連合会ホームページより「第 52 回学生生活実態調査の概要報告」<http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>
- ・鳥取県立図書館ホームページより「鳥取県立図書館のすがた」（図書館要覧）
<https://www.library.pref.tottori.jp/about/cat3/>
- ・鳥取大学ホームページ <http://www.tottori-u.ac.jp/>
- ・鳥取環境大学ホームページ <http://www.kankyo-u.ac.jp/>
- ・鳥取短期大学ホームページ <http://www.cygнус.ac.jp/>
- ・鳥取看護大学ホームページ <http://www.tcn.ac.jp/>